



第109回

美容

日本

The 109th Congress of
Japan Society of Aesthetic Surgery

匠

の技を学ぶ、
見る、魅せる

～絶対的満足を目指して～

外科学会

会期 2021年5月26日(水)・27日(木)

会場 ANAインターコンチネンタルホテル東京
〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33

会長 酒井 直彦 銀座S美容・形成外科クリニック 院長

事務局 銀座S美容・形成外科クリニック
〒104-0061
東京都中央区銀座6-5-13 CSS BuildingⅢ 3F

運営事務局 株式会社サンプラネット
〒112-0012
東京都文京区大塚3-5-10 住友成泉小石川ビル6F
TEL:03-5940-2614 FAX:03-3942-6396
E-mail: jsas109@sunpla-mcv.com

演題募集期間 2020年12月9日(水)～2021年1月13日(水) <http://jsas109.umin.jp>

2021年
1月1日(水)
第029号
一般社団法人 日本美容外科学会
〒143-0023 東京都大田区山王
3-37-13
e-mail: info@jsas.or.jp



日本美容外科学会新聞

JAPAN SOCIETY OF AESTHETIC SURGERY
JAPAN FOUNDATION OF AESTHETIC MEDICINE

日本美容外科学会
公式新聞

今月号の
主なお知らせ

新年のご挨拶
第109回日本美容外科学会

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
皆様、つつがなく新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。
学会員の皆様におかれましては昨年度からのコロナ禍にありながらも、さらに美容医療に邁進されておられることと存じあげます。

日本での56年ぶりのオリンピックも開催予定でありましたが、新型コロナウイルスの世界的流行の影響により延期となりました。

美容医療も大きな痛手を被り、あらゆる業種、業態において、変化を余儀なくされています。

我々、JSASも「日本美容整形外科学会」から1966年、日本美容外科学会を発足し、翌年、第1回学会を開催して以来、54年の歴史上初めての中止となりました。延期という選択肢もありましたが、まだまだ、昨年3月の時点では新型コロナウイルスの感染状況が不透明な中、学会員の皆様及びスタッフ含め関係者の方々の安全、海外公演者等の渡航の可否など、どこまで見込めるかわからず、また、日本におけるパンデミックも懸念される中、延期ではなく中止という判断に至りました。その後4月に、日本における緊急事態宣言が発動されることになりました。

第108回学会長 高田章好先生におかれましては、非常にご苦労、ご尽力をいただきましたが、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。また、会員の皆様、講演・発表予定の先生方各位、ご協力いただく予定でありました協賛企業の方々には多大なご迷惑をかけましたことをこの場をかりて深くお詫び申し上げます。第108回日本美容外科学会の開催にあたっては、今後、東京のみではなく地方の活性化と、東京以外の学会員の方々の充実を図っていくという趣旨の一環として、東京ではなく、高田章好学会長のもと大阪での開催予定でありました。久しぶりの東京以外での学会開催ということで、高田学会長のもと準備を進めていたところですが中止という選択は非常に残念で断腸の思いでした。専門医試験に関しましては昨年11月28日に東京プリンスホテルにてとり行うことができました。これからの学会のあり方改めて考え直すきっかけとなり、これをプラスとして、より一層の充実を図っていきたい所存であります。

日本においても、昨年春には、不要不急の用事は控えるよう指示がありましたが、美容医療は不急の場合はあっても、不要な医療ではありません。美容医療に、様々な思いを胸に来院される患者様が限り、美容医療を提供していく事は、必要なことであると考えます。

そして、過去のウイルス感染症や、今回の新型コロナウイルス感染拡大により得た、貴重な体験を教訓として、診療形態、医療科学や医療技術の発展、進歩を継続して、我々は前に進んでいくことが大切です。もちろん美容医療における安心安全な医療をおろそかにしてはいけませんし、実際に美容医療を患者様に提供するには、医師の能力によるところが大きい、と言うことを肝に銘じ、たゆまぬ努力を続けていきたいと思います。ここに皆様方のさらなる発展を期待し、ご挨拶とさせていただきます。

なお、第109回日本美容外科学会は、本年5月26日、27日にANAインターコンチネンタルホテル東京にて、酒井直彦学会長のもと開催されます。皆様方のご参加、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



日本美容外科学会
理事長 保志名勝

2021年度専門医試験および専門医更新の案内

専門医試験の申込みは**3月31日締切**（試験日は**5月27日**予定）

専門医の認定を申請する会員は**各項の条件全てを満すことが必要です。**

詳しくは学会HP (<http://www.jsas.or.jp/contents/rules.html>) 専門医制度規則及び細則を参照の上、申請書をダウンロードし作成して一式を学会事務局宛てメール添付にてお申し込み下さい。

詳しい日程や会場は学会HP (<http://www.jsas.or.jp/>) をご参照ください。

同時に審査料6万円を3月31日までに個人名が判るようにして次の学会口座にお振り込み願います。

みずほ銀行 品川支店 (店番195)

普通預金 口座番号1481676

口座名 一般社団法人 日本美容外科学会

今年、専門医更新期限に達する会員は**3月31日までに申請書類を事務局に届くように送付する必要があります。**

専門医更新書類はHP (http://www.jsas.or.jp/g_document/koushin_2021.pdf) からダウンロードしてください。

詳しい規則は学会HP (<http://www.jsas.or.jp/contents/rules.html>) をご確認ください。

第109回日本美容外科学会のご案内

会期：2021年5月26日（水）・27日（木）

会場：ANA インターコンチネンタルホテル東京

テーマ：匠の技を学ぶ、見る、魅せる ～絶対的満足を目指して～

<海外招待講演>

Dr. Rod Rohrich：鼻の形成手術、特に東洋人に多い短鼻、鼻中隔延長術、鼻尖縮小、鼻翼縮小、皮膚の厚い大きな鼻を小さくする、など
座長：吉村浩太郎先生（自治医科大学形成外科学）

Dr. James Stuzin：フェイスリフト&ネックリフト（東洋人症例を含めた）
座長：野平久仁彦先生（蘇春堂形成外科）

<ライブサージェリー>

「眼瞼下垂の手術」

演者：小泉正樹先生（こいずみ形成クリニック）
座長：池田欣生先生（東京皮膚科・形成外科）

「解剖学に基づいたフィラー注入によるフルフェイス治療」

演者：岩城佳津美先生（いわきクリニック）
座長：今泉明子先生（今泉スキンクリニック）

<シンポジウム>

- 1) 美しい眼を求めて
座長：池田欣生先生（東京皮膚科・形成外科）
- 2) 下眼瞼の老化と治療戦略
座長：水谷和則先生（銀座みゆき通り美容外科）
- 3) スレッドリフトとコンビネーションフェイスリフト
座長：衣笠哲雄先生（きぬがさクリニック）
- 4) 最大限の効果を目指した根治的フェイスリフト
座長：鈴木芳郎先生（ドクターズパ・クリニック）
- 5) 鼻中隔延長術のキモ：最も頻用する延長法と美しい鼻先形成のポイント
座長：福田慶三先生（ヴェリテッククリニック）
- 6) 鼻尖形成術のキモ：鼻先でこれだけ美しくなる
座長：室孝明先生（ビスポーククリニック）
- 7) 鼻翼縮小術・鼻翼挙上術
座長：大口春雄先生（八事石坂クリニック）
- 8) 隆鼻術とその材料
座長：菅原康志先生（リラ・クラニオフェイシャル・クリニック）
- 9) 口唇形成
座長：田中亜希子先生（あきこクリニック）
- 10) Two Jaw Surgery (Le Fort I型骨切り術+下顎枝矢状分割術)
～美しい顔面輪郭を形成するための手術計画とその手術法～
座長：廣比利次先生（リッツ美容外科）
- 11) 肝斑+ADMの混在治療、私の戦略と実践
座長：山下理絵先生（湘南藤沢形成外科クリニックR）
- 12) 痩身治療：機器と注射剤でここまでできる
座長：宮田成章先生（みやた形成外科・皮ふクリニック）
- 13) 機器と注入によるシワたるみ治療、ここまでできる
座長：石川浩一先生（クロスクリニック）
- 14) 癬痕を作らないニキビ治療とアクネ癬痕に対する治療のアルゴリズム
座長：須賀康先生（順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科）
- 15) 美容外科と再生医療の展望と実際
座長：高戸毅先生（JR東京総合病院）
- 16) 困難な症例と治療
座長：大竹尚之先生（松倉クリニック代官山大竹ラボ）
- 17) 他院修正、unfavorable resultsの recovery shots
座長：鎌倉達郎先生（聖心美容クリニック）
- 18) これまでの豊胸術、これからの豊胸術
[JSAS・JSAPS共同開催セッション]
座長：武田啓先生（北里大学医学部形成外科・美容外科学）、
高田章好先生（大阪大学形成外科学）
- 19) 匠の技1：成功のコツと注意すべきpitfall（ビデオシンポジウム）
座長：保志名勝先生（ノエル銀座クリニック）
 - ① 陥没乳頭：酒井成身先生（新宿美容外科・歯科）
 - ② 眉下切開：境隆博先生（六本木境クリニック）、
 - ③ 輪郭形成（V字ライン形成術）：廣比利次先生（リッツ美容外科）
- 20) 匠の技2：成功のコツと注意すべきpitfall（ビデオシンポジウム）
座長：大慈弥裕之先生（福岡大学医学部形成外科学）
 - ④ 腱膜前転重瞼術：野平久仁彦先生（蘇春堂形成外科）
 - ⑤ 下眼瞼除皺術：小室裕造先生（帝京大学医学部形成外科学）
 - ⑥ 鼻中隔延長術：菅原康志先生（リラ・クラニオフェイシャル・クリニック）

◆ 演題募集のご案内

プログラムは基本的に演者指定となっております。

一般演題のご発表は、広く募集させていただきますので、皆様ご発表もご検討のほどよろしくお願いたします。

演題募集期間は、2020年12月9日～2021年1月13日の予定です。

学会ホームページ内の、演題募集バナー（<http://jsas109.umin.jp>）よりエントリーしていただけますよう、よろしくお願申し上げます。



ANA ホテル 学会場



ANA ホテル 外観



ANA ホテル ロビー



ANA ホテル 周辺マップ

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

この度、第109回 日本美容外科学会の学会長を拝命いたしました、銀座S美容・形成外科クリニック院長の酒井直彦です。開催に際し、日本美容外科学会理事長の保志名勝先生をはじめ、関係各位よりご指導ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。



第109回会長委嘱状授与式
(通常は学会場ですが今回は理事会にて)

学会の会期は、2021年5月26日（水）・27日（木）となります。
学会場は、六本木のANA インターコンチネンタルホテル東京です。

現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による甚大な被害が全世界的に生じており、未だ収束に至っておりません。100年前のスペインかぜ（昔の新型インフルエンザで、死亡率はもともとずっと高いのですが）以来のパンデミックとも言われる感染症は、この原稿を書いている2020年12月5日現在までの状況で、約6526万人が感染し151万人以上の方が命を落とされており、世界的な経済の停滞や、日常生活の制限を強いられています。

武漢に流行した頃には、対岸の火事と思っていたのに、あれよあれよという間に日本にも感染が広がり、短期間で世界的な感染爆発を起こしました。当初の頃よりは、重症化率や死亡率は減少していますが、感染の移りやすさはただの風邪とは言えません。また、ハイリスク患者が感染すれば、肺炎やサイトカインストームで命に関わる可能性もあります。

感染医療現場の最前線でご尽力されている医療従事者の方々には、心より感謝申し上げます。

今後どのような形で事態が収束（ないし終息）したとしても、“2020年”は、世界史年表に特記される年であり、人々の記憶に刻まれることになるでしょう。このパンデミックは学会にも大きく影響して、中止や延期、あるいはウェブ開催やハイブリッド開催への変更が余儀なくされています。JSASにおいても大阪高田章好学会長のもと第108回 日本美容外科学会が予定されておりましたが、残念ながら中止となっております。

私もこれまでに、ハイブリッド（現地+ウェブ配信）という新しいスタイルで開催された学会で、数回の現地発表をさせていただきました。主催される施設の先生もご苦勞なさっているのが伝わってきますし、感染状況も沈静化していない中での開催は大変ご苦勞なされたらと思います。やはり、仕方のないところで、学会場での人も決していつも通りとは言えません。ウェブ配信の良いところも勿論ありますが、可能な状況であれば、現地でのFace to Faceでの開催が学会の形態としては伝わりやすく望ましいものであると感じました。

第109回 日本美容外科学会は、状況を見極めてベストな開催方式を選択したいと思います。

例年、学会第1日目に盛大に開催される総合懇親会は、学会員の皆様も楽しみにしているイベントであります。しかしながら、現在の状況を鑑みて、第109回学会においては、懇親会は中止の予定といたします。状況が変化した場合は再度検討したいと思います。

旧年中は、まさにコロナ禍の年でありましたが、この新聞が発行される頃にはワクチンなどの対策が講じられて、学会やオリンピックや海外旅行が安心してできる世界になっていて欲しいと、心より願っております。そして、本番まではまだ時間がございますが、1日も早い、世界的な感染流行の沈静化と日常生活の復調を祈念しております。

さて、今回の学会のテーマは「匠の技を学ぶ、見る、魅せる ～絶対的満足を目指して～」とさせていただきます。美容外科や美容皮膚科のエキスパートの先生をお招きしてシンポジウムやパネルディスカッションが中心の形式となります。

また感染症の状況にもよりますが、海外からスーパー美容外科医のお二人をお招きする予定です。Rod Rohrich先生にはRhinoplastyのご講演を、James Stuzin先生にはFaceliftのご講演をお願いしております。Rohrich先生は形成外科・美容外科のトップジャーナルであるPRS (Plastic & Reconstructive Surgery) の編集長を長年勤められていた方です。またお二人は、世界最高峰の美容外科カンファレンスと言われるBaker Gordon Symposiumをご牽引なさっております。今回の海外招待講演は、どなたも聴きやすく（勿論、私にも）、質問もしやすいように、同時通訳での開催を予定しております（新型コロナ感染症流行の状況によってはWebセミナーになる可能性があります）。

さらに、眼瞼下垂の匠である小泉正樹先生と、フィラー注入の匠の岩城佳津美先生をお招きしてライブサージェリーの中継を行う予定です。

現時点で予定しているプログラムは別表のようになります（変更の可能性あります）。

私自身が聞きたい、知りたい内容がたくさん盛り込まれている、とても魅力的なプログラムであると自負しております。

次は、学会テーマのキーワードである、“匠”と“絶対的満足”に関してです。“絶対的満足”とは、私が大学病院勤務時代に考えた造語です。

さて、諸先生方は、どんな瞬間に医者としての喜びを感じるのでしょうか？

手術や皮膚治療が上手くいったときは嬉しいですし、長時間の手術も結果が良ければ疲れも癒されます。

でも患者さんにも満足してもらわないと意味はない。とりわけ美容外科や美容皮膚科にはそれが大切です。

時々、「先生に受診できて幸せでした」、「先生には感謝してます」なんて言ってくれたり手紙を書いてくれたりする患者さんがいらっっしゃいます。

まったくもって医者冥利に尽きますよね？

医は仁術だといひます。患者さんと信頼関係を築く事はとても大切です。

患者さんが満足していて本人も満足していた手術があるとしたら。その信頼関係の上ではその手術は満点に近いのです。それはそれで十分なのでしょう。しかし仮にその症例は他の医師から見ればイマイチだと思われる手術があるとしたら。その状態を“相対的満足”と呼んでみます。一方で、医師は満足していても患者さんは満足できていない手術は“一方的満足”です。特に美容医療でこれはNGですね。次に、患者さんが満足して医師も満足して、さらに他の医師からみても納得のきばえや治療法の選択（お、良いねえ。みたいな）と見なされる場合を“絶対的満足”とします。そんな理想的なことは難しい、けど少しでも確率を上げたい。“絶対的満足”を得るために（得られるようになるために）頑張っているのだと日々思います。要するに自分も満足、患者さんも満足、他の人も納得、という結果を得るためです。

その様な道を邁進しているのが、“匠”だと思っています。

私が日々大切にしているこれらの言葉が、今回の学会のテーマであります。

学会員の方々はもちろん、学会員でない先生方、形成外科、皮膚科、眼科の先生方にも、美容入門者から、美容外科のエキスパートの先生方にも、存分に楽しんでいただけるよう入念な準備をいたしますので、是非ご参加下さい。

また、学会開催時には、現在の暗い情勢を吹き飛ばすような、盛り上がる内容になりますよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。



第109回日本美容外科学会学会長
銀座S美容・形成外科クリニック
院長 酒井直彦